



セキュリティとデータ暗号化

Cloud Volumes ONTAP

NetApp
June 01, 2022

目次

セキュリティとデータ暗号化.....	1
ネットアップの暗号化ソリューションによるボリュームの暗号化.....	1
ランサムウェアからの保護を強化.....	1
Azure Key Vaultを使用してキーを管理します.....	3
GoogleのCloud Key Management Serviceを使用してキーを管理します.....	5

セキュリティとデータ暗号化

ネットアップの暗号化ソリューションによるボリュームの暗号化

Cloud Volumes ONTAP は、NetApp Volume Encryption（NVE）および NetApp Aggregate Encryption（NAE）をサポートしています。NVE と NAE は、（FIPS）140-2 に準拠したボリュームの保管データ暗号化を可能にするソフトウェアベースのソリューションです。"[これらの暗号化ソリューションの詳細については、こちらをご覧ください](#)"。

NVE と NAE はどちらも外部キー管理機能でサポートされています。

外部キー管理ツールを設定すると、新しいアグリゲートで NAE がデフォルトで有効になります。NAE アグリゲートに含まれない新しいボリュームでは、NVE がデフォルトで有効になります（たとえば、外部キー管理ツールを設定する前に作成された既存のアグリゲートがある場合）。

Cloud Volumes ONTAP はオンボードキー管理をサポートしていません。

Cloud Volumes ONTAP システムがネットアップサポートに登録されている必要があります。ネットアップサポートに登録されている各 Cloud Volumes ONTAP システムには、NetApp Volume Encryption ライセンスが自動的にインストールされます。

- "[Cloud Manager へのネットアップサポートサイトのアカウントの追加](#)"
- "[従量課金制システムの登録](#)"



Cloud Manager は、中国地域のシステムに NVE ライセンスをインストールしません。

手順

1. でサポートされているキー管理ツールのリストを確認します "[NetApp Interoperability Matrix Tool で確認できます](#)"。



Key Managers * ソリューションを検索します。

2. "[Cloud Volumes ONTAP CLI に接続します](#)"。
3. 外部キー管理を設定

"[手順については、ONTAP のドキュメントを参照してください](#)"。

ランサムウェアからの保護を強化

ランサムウェア攻撃は、ビジネス時間、リソース、評判を低下させる可能性があります。Cloud Manager では、ランサムウェアに対応したネットアップソリューションを実装できます。これにより、可視化、検出、修復のための効果的なツールが提供されます。

手順

1. 作業環境で、「* ランサムウェア *」アイコンをクリックします。



2. ネットアップのランサムウェア向けソリューションを導入する：
 - a. Snapshot ポリシーが有効になっていないボリュームがある場合は、* Snapshot ポリシーのアクティブ化 * をクリックします。

NetApp Snapshot テクノロジは、ランサムウェアの修復に業界最高のソリューションを提供します。リカバリを成功させるには、感染していないバックアップからリストアすることが重要です。Snapshot コピーは読み取り専用であり、ランサムウェアによる破損を防止します。単一のファイルコピーまたは完全なディザスタリカバリソリューションのイメージを作成する際の単位を提供することもできます。
 - b. FPolicy のアクティブ化 * をクリックして ONTAP の FPolicy ソリューションを有効にします。これにより、ファイルの拡張子に基づいてファイル操作をブロックできます。

この予防ソリューションは、ランサムウェア攻撃からの保護を強化する一般的なランサムウェアファイルタイプをブロックします。

デフォルトの FPolicy スコープは、次の拡張子を持つファイルをブロックします。

マイクロ、暗号化、ロック、暗号化、暗号化、暗号化 crinf、r5a、XRNT、XTBL、R16M01D05、pzdc、good、LOL!、OMG!、RDM、RRK、encryptedRS、crjoker、enciphered、LeChiffre




Cloud Manager では、Cloud Volumes ONTAP で FPolicy をアクティブ化するときこのスコープを作成します。このリストは、一般的なランサムウェアのファイルタイプに基づいています。ブロックされるファイル拡張子をカスタマイズするには、Cloud Volumes ONTAP CLI から `_vserver fpolicy policy scope_` コマンドを使用します。

Ransomware Protection

Ransomware attacks can cost a business time, resources, and reputation. The NetApp solution for ransomware provides effective tools for visibility, detection, and remediation. [Learn More](#)

1 Enable Snapshot Copy Protection ⓘ




50 %
Protection

1 Volumes without a Snapshot Policy

To protect your data, activate the default Snapshot policy for these volumes ⓘ

Activate Snapshot Policy

2 Block Ransomware File Extensions ⓘ



ONTAP's native FPolicy configuration monitors and blocks file operations based on a file's extension.

View Denied File Names ⓘ

Activate FPolicy

Azure Key Vaultを使用してキーを管理します

を使用できます **"Azure キーボールド (AKV)"** Azureで導入されたアプリケーションでONTAP 暗号化キーを保護するため。

AKV と Cloud KMS を使用して保護することができます **"NetApp Volume Encryption (NVE) キー"** データSVMの場合のみ。

AKVを使用したキー管理は、CLIまたはONTAP REST APIを使用して有効にできます。

AKVを使用する場合、デフォルトではクラウドキー管理エンドポイントとの通信にデータSVM LIFが使用されることに注意してください。ノード管理ネットワークは、クラウドプロバイダの認証サービス (login.microsoftonline.com) との通信に使用されます。クラスタネットワークが正しく設定されていないと、クラスタでキー管理サービスが適切に利用されません。

前提条件

- Cloud Volumes ONTAP でバージョン9.10.1以降が実行されている必要があります
- Cloud Volumes ONTAP クラスタのノードでNVEがサポートされている必要があります
- Volume Encryption (VE) ライセンスがインストールされている
- Multi-tenant Encryption Key Management (MTEKM) ライセンスがインストールされています
- クラスタ管理者またはSVMの管理者である必要があります
- アクティブなAzureサブスクリプション

制限

- AKVはNSEキーおよびNAEキーでは使用できません
- AKVはMetroCluster 構成では使用できません。
- AKVはデータSVM上でのみ設定できます

設定プロセス

ONTAP の設定

1. 優先SSHクライアントを使用してクラスタ管理LIFに接続します。
2. ONTAP でadvanced権限モードに切り替えます。「set advanced-con off」
3. 目的のデータSVMを特定し、そのDNS設定を確認します。「vserver services name-service dns show」
 - a. 目的のデータSVMのDNSエントリが存在し、そのエントリにAzure DNSのエントリが含まれている場合は、対処は必要ありません。表示されない場合は、Azure DNS、プライベートDNS、またはオンプレミスサーバを指すデータSVMのDNSサーバエントリを追加します。これは、クラスタ管理SVMのエントリと一致している必要があります。vserver services name-service dns create -vserver _svm_name -domains _domain_name-servers _ip_address _
 - b. データSVM用にDNSサービスが作成されたことを確認します。vserver services name-service dns show
4. アプリケーションの登録後に保存されたクライアントIDとテナントIDを使用してAzure Key Vaultを有効にします。「security key-manager external Azure enable -vserver svm_name _-client -id_caz_client_client_ID_tenant_ID_name_azure-name_aze_key_name_-key_key_id_azure_key_id_id_」
5. キー管理ツールの構成を確認します。「security key-manager external Azure show」
6. キー管理ツールのステータスを確認します。「security key-manager external Azure check」 出力は次のようになります。

```
::*> security key-manager external azure check

Vserver: data_svm_name
Node: akvlab01-01

Category: service_reachability
Status: OK

Category: ekmp_server
Status: OK

Category: kms_wrapped_key_status
Status: UNKNOWN
Details: No volumes created yet for the vserver. Wrapped KEK status
will be available after creating encrypted volumes.

3 entries were displayed.
```

「SERVICE_Reachability」ステータスが「OK」でない場合、SVMは必要なすべての接続および権限を使用してAzure Key Vaultサービスに到達できません。初期構成で「kms_wrapped_key_status」は「unknown」を報告します最初のボリュームが暗号化されるとステータスはOKに変わります

7. オプション：テストボリュームを作成してAKVの機能を確認します。vol create -vserver _svm_name _-volume_name_-aggregate_aggr_size_size__ state online -policy default '正しく設定されていると、ONTAP によってボリュームが自動的に作成され、ボリュームの暗号化が有効になります。
8. ボリュームが正しく作成および暗号化されたことを確認します。その場合、「-is-encrypted」パラメータは「true」と表示されます。vol show -vserver _svm_name_-fields is-encryptedです

GoogleのCloud Key Management Serviceを使用してキーを管理します

使用できます "Google Cloud Platform のキー管理サービス (Cloud KMS)" Google Cloud Platform導入アプリケーションでONTAP 暗号化キーを保護します。

キー管理Cloud KMSは、CLIまたはONTAP REST APIを使用して有効にすることができます。Cloud Volumes ONTAP 用にCloud KMSを設定するには、まず必要があります

Cloud KMSを使用する際は、デフォルトでデータSVM LIFがクラウドキー管理エンドポイントとの通信に使用されることに注意してください。ノード管理ネットワークは、クラウドプロバイダの認証サービス (oauth2.googleapis.com) との通信に使用されます。クラスタネットワークが正しく設定されていないと、クラスタでキー管理サービスが適切に利用されません。

前提条件

- Cloud Volumes ONTAP クラスタのノードでNVEがサポートされている必要があります
- Volume Encryption (VE) ライセンスがインストールされている
- Multi-tenant Encryption Key Management (MTEKM) ライセンスがインストールされています
- クラスタ管理者またはSVMの管理者である必要があります

制限

- Cloud Volumes ONTAP でバージョン9.10.1以降が実行されている必要があります
- クラウドKMSはNSEとNAEには利用できません。
- MetroCluster 構成では、クラウドKMSは利用できません。
- クラウドKMSはデータSVMでのみ設定できます
- アクティブなGoogle Cloud Platformサブスクリプション

—有効にします

1. Google Cloud環境の場合：

- a. 対称GCPキーリングとキーを作成します。
- b. Cloud Volumes ONTAP サービスアカウント用のカスタムロールを作成します。「gcloud iam roles create kmsCustomRole — project=*project_id*--title=*tkms_custom_role_name* --description=ks.cryptoKeyVersionsGet、kms.cryptoKeyVersions.get、kms.cryptoKeyVersions.list、cloudkms.cryptoKeyVersions.useToDecrypt,cloudkms.cryptoKeyVersions.useToEncrypt,cloudkms.cryptoKeys.get,cloudkms.keyRings.get,cloudkms.locations.get,cloudkms.locations.list,resourceManager.projects.get -stage /ga/ga/ga/ga?-stage
- c. カスタムロールをCloud KMSキーとCloud Volumes ONTAP サービスアカウントに割り当てます。「gcloud kms keys add -iam-policy binding *\${key_name}*-- keyring *\${key_ring_NAME}*-- location *\${key_location}*-- member serviceAccount : *\${service_account_Name}*-- role_projects/customers_projects_projects_security_security_security_security_roles/<_project.<_security_security_account>
- d. サービスアカウントのJSONキーをダウンロードします。「gcloud iam service-accounts keys create key-file --iam-account=*sa-name@project-id.iam.gserviceaccount.com*

2. Cloud Volumes ONTAP 環境に切り替えます。

- a. advanced権限レベルに切り替えます:'set -privilege advanced
- b. データSVM用のDNSを作成DNS create -domains c.[\[project\]](#).internal -name-servers_server_address_
-vserver_svm_name_`
- c. CMEKエントリを作成します：'security key-manager external GCP enable
-vserver_svm_name_project-id_project_-key-ring-name_key_ring_name_-key-ring
-location_key_ring_location_-key-name_key_name_`
- d. プロンプトが表示されたら、GCPアカウントのJSONキーを入力します。
- e. 有効なプロセスが成功したことを確認します。「security key-manager external GCP check -vserver
_svm_name_」
- f. オプション：暗号化「vol create *volume_name*>-aggregate *vserver_name*-size 10G」をテストするボ
リュームを作成します

トラブルシューティングを行う

トラブルシューティングが必要な場合は、上記の最後の2つの手順でREST APIのrawログをテールできます。「set d」。「systemshell -node _node」 コマンドtail -f /mroot/etc/log/mlog/kmip2_client.log

著作権情報

Copyright © 2022 NetApp, Inc. All rights reserved. 米国で印刷されていますこのドキュメントは著作権によって保護されています。画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体などの機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。テープ媒体、または電子検索システムへの保管-著作権所有者の書面による事前承諾なし。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、いかなる場合でも、間接的、偶発的、特別、懲罰的、またはまたは結果的損害（代替品または代替サービスの調達、使用の損失、データ、利益、またはこれらに限定されないものを含みますが、これらに限定されません。）ただし、契約、厳格責任、または本ソフトウェアの使用に起因する不法行為（過失やその他を含む）のいずれであっても、かかる損害の可能性について知らされていた場合でも、責任の理論に基づいて発生します。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、またはその他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1 つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許により特許、その他の国の特許、および出願中の特許。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7103（1988 年 10 月）および FAR 52-227-19（1987 年 6 月）の Rights in Technical Data and Computer Software（技術データおよびコンピュータソフトウェアに関する諸権利）条項の（c）（1）（ii）項、に規定された制限が適用されます。

商標情報

NetApp、NetAppのロゴ、に記載されているマーク <http://www.netapp.com/TM> は、NetApp、Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。